

Act an act gallery 開廊のお知らせ

Act an act galleryの開廊をお知らせいたします。

一口にギャラリーと言ってもその様子は千差万別です。本ギャラリー最大の特徴は、特定の施設を持たないという点であり、地球全体を展示スペースと考え、都市や自然、またはその狭間での展示を企画しています。なかでも、移動式ホワイトキューブを用いた展覧会は本ギャラリーを象徴するような企画として機能します。

作品を展示するうえでスペース、場所は非常に大切であると同時に、意味を持ちます。作品以外の要素が介入してしまうことに疑問を感じ、展示空間あるいは大地の解体について考えました。

例えば、道路とは交通が発展した現代において、土地と土地の境目であり、常に警戒の対象です。公園を歩くようにして道路を横断することは危険極まりないことであり、信号への絶対的な信頼のもと我々の生活は成り立っています。

しかし、もともとそこは道路ではなく、ただの大地でした。公園での安らぎも、かつてそこにはあったことでしょう。境目および狭間という私たちの生活のために定められた意識に過ぎなかったものが、現代社会ではあらゆるものに線が引かれ、加速する規格化は止まることを知りません。本ギャラリーの移動式ホワイトキューブは、あらゆる境界を超え、時には道路、交通という強力な制約すらも超越します。

様々な技術の発展に伴う、効率化、規格化によるルールの厳格化が顕著になった現代において、果たして社会は良くなったのでしょうか。問題は山積みどころか、日々増えていってるという印象さえあります。

現代の芸術をとっても、似たようなことが考えられます。

SNS、インターネットの発展は、作品の制作および発表だけでなく、鑑賞という点でも芸術をオープンにし、さらにグローバルなものに変化させました。

Instagramである展覧会について調べると、写真、動画だけでなく感想まであらゆる情報がアーカイヴされ、実際に行かなくても全貌を知ることができます。鑑賞体験の価値が揺れ動く現代だからこそ、私たちはそういったSNS、インターネットの特性を利用し、アーカイヴによる鑑賞者とのつながりも重視しております。ただ

表面的な修正をするのではなく、特性を理解し歩み寄って初めて、仕組みや中身についての再解釈は可能になると考えます。

最後に、本ギャラリーは、高尚になりすぎてしまった芸術の降格を最大の目標としております。現代の芸術の高尚さは一目瞭然であり、本来芸術が持ち合わせているはずの資質も、現在では失われているように思えます。半永久的な自律が約束されたはずの作品も、ひどい横風に煽られ倒壊してしまう。そんな光景が何度繰り返されても、文化の発展にはつながらないでしょう。ハイ・アートによって失われた芸術本来の資質を今一度見直し、再解釈することで皆さんと親しみやすい芸術の発展、そして時には社会に対するツールとなりうるような芸術を目指していきたいと、私たちは考えております。

Act an act gallery オーナー
ディレクター 渡邊 翔梧

Act an act gallery アソシエイト・ディレクター
キュレーター 田中 滋恩